「奥雲仙田代原」地域で取り組む保全活動

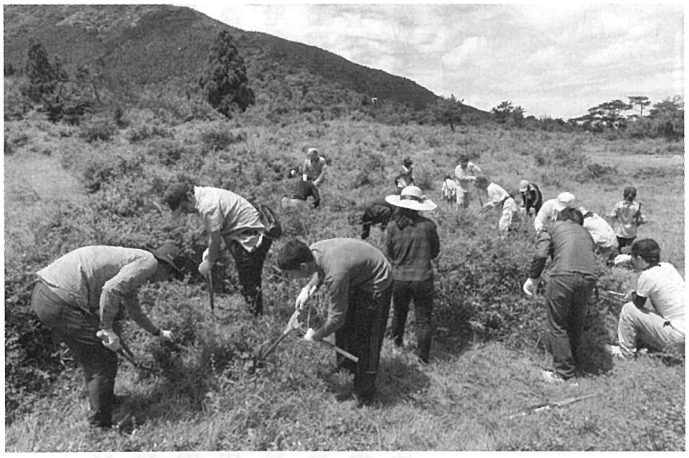
長崎県雲仙市　特定非営利活動法人奥雲仙の自然を守る会

雲仙天草国立公園の中に、地元の人々から「奥雲仙田代原」と呼ばれる地域がある。そこには千々石断層のずれにより形成された盆地の草原が広がる。江戸時代より島原藩の財政を支える牛馬の放牧が行われ、雲仙温泉で賑わった観光地とともに発展を担ってきた歴史ある地域である。

しかし、昭和9年に日本で初めての国立公園指定を機に放牧が減少し、雲仙岳山麓にあった多くの放牧地のうち現在も続くのは奥雲仙田代原のみになった。さらに近年の畜産業の衰退に伴い、草原の維持が難しくなり森林化が急速に進んでいる。それに伴って雲仙地域を代表する希少なミヤマキリシマが減少している。

ミヤマキリシマは、九州の火山地帯特有のツツジで、牛はミヤマキリシマの葉を食べないため、雲仙地域の放牧地にはミヤマキリシマ群落が多く存在した。その中でも、唯一現在も放牧が行われている田代原草原は、雲仙の原風景を残す貴重な地域である。数十年前までは地域の住民の遠足の目的地であり、地域において親しみのある草原であったが、現在ではその利用も減少している。

そこで、平成17年に地元の住民や有志により「奥雲仙の自然を守る会」を設立し、減少した牛の代わりに人の手による下草刈りや除伐作業などの保全活動を行うようになった。国立公園による法的な活動制限や、放牧時期には安全面により活発な活動を行えない中、様々な人の協力を得ながら地道



下草刈りや除伐作業などの保全活動

田代原草原

に活動を続けてきたところ、貴重なフィールドでの保全活動を自然体験や環境教育に活用していることが評価され、平成22年に林野庁の「遊々の森」に選定された。環境省や林野庁の協力により、地域の小学校などの自然体験のフィールドとして、環境教育の実践の場としての活用を始めるようになり、また、長崎県の森林ボランティアセンターにも登録し、子どもたちだけではなくボランティア実践の場として活用の幅を広げていった。

大学や企業と協働し環境教育と保全活動を展開

平成25年からは、長崎大学環境科学部の森林専門の教授や、生態系サービス専門の先生が、年2回フィールドワークの授業を田代原で行うようになった。毎回20～30人の学生が参加するフィールド授業と保全活動は、地元の企業である扇精光を含む（一社）建設コンサルタンツ協会による若手技術者向けの研修フィールドとして合同で実施することになった。大学生や社会人の参加者に貴重な草原や生態系を理解してもらうため、環境省、林野庁による国立公園および国有林における田代原草原の価値についての講話と、環境科学部の講師による環境教育の授業、当会による保全活動を指導する充実した内容になっている。

この授業をきっかけに長崎大学においても、ボランティアサークルを立ち上げ自主的に保全活動に参加する学生や、卒業論文や研究課題として取り組む学生を輩出するなど、先生や学生が活発に足を運ぶようになり、田代原草原はミヤマキリシマを含む貴重な植物や昆虫が多数生息する科学的価値も次第に明らかになってきた。

田代原草原の回復に向けて

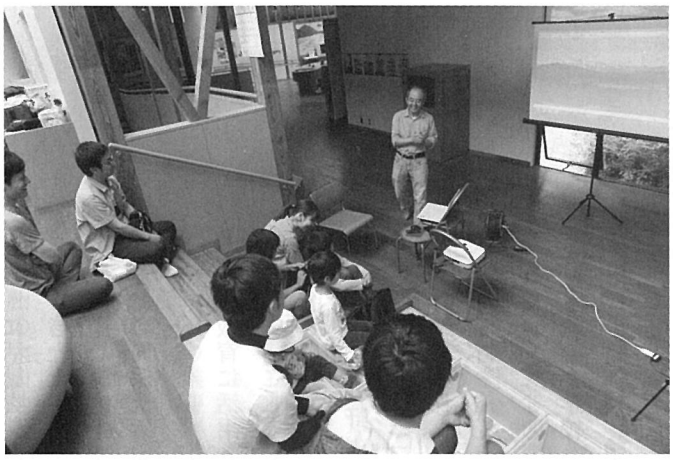
当会の目下の課題が、会員の高齢化と森林の担い手不足、地域に活動が浸透していない点であったが、建設コンサルタンツ協会の若手技術者が中心となり、平成29年からはその課題解決に向けて、以下の2点において積極的に取り組むようになった。

大学や企業と協働しフィールドワークを年2回実施

1．長崎大学環境科学部のフィールドワークを一般公開のイベントにする。

地域の住民が田代原草原のミヤマキリシマや生態系の価値を理解するきっかけとして、地域住民も大学生と一緒に学び、保全活動にも参加するイベントとして公募し、第1回は51人、第2回は32人の参加があった。イベントチラシの配布や新聞、SNSなどによる告知にて、当会や田代原草原の広報活動にもつながった。

2．建設コンサルタンツ協会や林野庁の協力で、記録写真やドローン撮影を行った。毎年の保全活動の実績や効果を写真や記録に残し、今後の保全活動の効果的な方法を検討する。


大学講師の環境教育

その中で最大の効果として、平成29年に林野庁レクリエーションの森の「美しの森」に選定された。そのことにより、景観を整備し、観光や教育の場として周知や利用を促すことを目的として、長崎県や雲仙市、島原雲仙農業協同組合と「雲仙田代原レクリエーションの森管理運営協議会」を立ち上げ、平成30年に長崎県森林管理署と協定を調印した。その結果今まで手作業ではできなかった大規模な修景伐採を行うことができた。

今年度にはさらに大規模な修景伐採と、新規の「田代原風致探勝林」の看板を設置することとなり、登山や散策に訪れる地域の住民や観光で訪れる人々が、田代原草原の四季折々の魅力ある風景を楽しむことができ、放牧された牛は樹木が減ることにより活動の範囲を広げることができ、今後の草原回復へ向けての大きな成果につながった。

今後も、地域住民への保全活動や自然体験への参加を呼びかけ、学校や企業など協働機関を増やし、地域住民と一体となり、かつての田代原草原の風景を取り戻す活動及び森の担い手育成のための活動や環境教育の取り組みを継続していく。

（現在までの成果）

平成17年　NPO法人奥雲仙の自然を守る会を立ち上げ、森林保全活動を始める。
平成22年　林野庁の「遊々の森」に選定される。
平成25年　長崎大学環境科学部と協力しフィールド研修を開始する。／（一社）建設コンサルタンツ協会と研修を開始する。
平成26年　環境省九州地方環境事務所表彰
平成28年　環境大臣表彰
平成29年　林野庁レクリエーションの森の「日本美しの森～お薦め国有林」に選定。全国93か所のうち、長崎県では田代原と対馬の2か所のみ。／長崎森林管理署と「雲仙田代原レクリエーションの森」協定を締結。
平成30・令和元年　十八銀行より植樹の提供を受け、共同の記念植樹と育樹活動開始。／島原半島3市合同で毎年実施の「森林のつどい」を開催

（特定非営利活動法人奥雲仙の自然を守る会　広報担当　木下美津子）